

6-2 於大の方 ガイド



13年9月、3歳の竹千代を岡崎に残して、離別されて刈谷に帰った。於大の方は水野家の生まれであり、徳川家康の生母であったのである。

2、その後の於大の方

数年の後、おそくも天文20年（1551）までの間に尾張阿古居（あぐい）城主久松俊勝に再婚して、康元・勝俊・定勝など三男四女を産んだ。久松俊勝（定俊）は、三河国松平氏に随従（ずいじゅう：つき従うこと・ともにすることの意）していた。

慶長7年（1602）家康の進めで上洛し、5月22日参内して後陽成天皇に謁した（えつ：目上の日とに面会するの意）。

その直後病にかかり8月28日伏見城中で没した。75歳。京都知恩院で法会の後、遺骸は江戸に送られ無量山寿経寺（小石川伝通院）に葬られた。法名は伝通院殿蓉誉光岳智光大禅定尼である。

3、その後の竹千代との絆

於大の方と竹千代との絆は、その後名前が竹千代から信康、元康、家康と変わるあいだに一層強まっていったようである。俊勝がなくなると、家康は俊勝と於大の方の間に生まれた松姫を養妹とし

1、於大の方（おだいのかた）の家筋（いえすじ）

於大は、三河の国刈谷城主水野忠政（ただまさ）の次女として、享禄元年（1528）に生まれた。天文10年（1541）14歳の時岡崎城主松平広忠（ひろただ）（16歳）に嫁す。

駿河の今川と結んだ松平氏と尾張織田と結んだ水野氏との一時的な和睦のための政略結婚であった。乱世を生き抜く一つ的手段として利用された於大の方であった。

天文11年（1542）12月26日竹千代（たけちよ）、後の徳川家康を産む。しかし同年8月の小豆坂の合戦を機に今川・織田の対立が激しくなり、松平・水野両氏の対立もまた深まったので、同

徳川家康像（増上寺蔵）



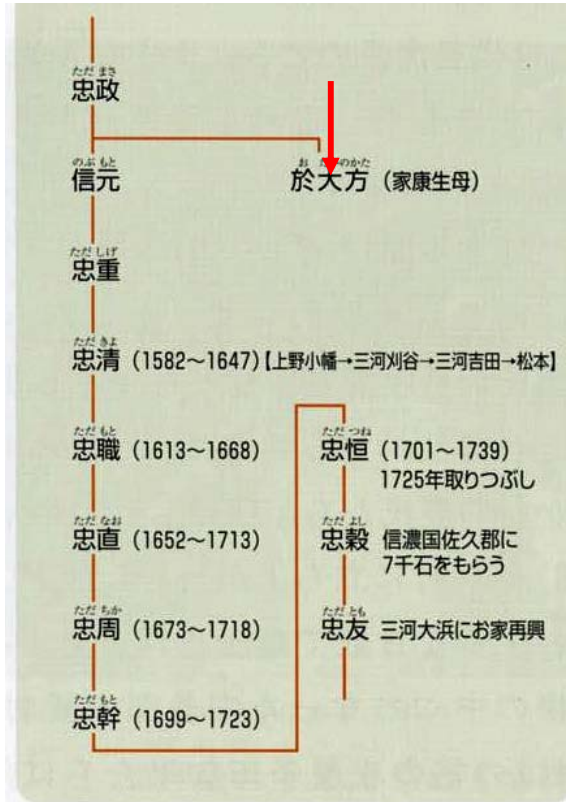
俊勝と於大の方の間に生まれた松姫



て育て、やがては松本城主戸田康長に嫁がせている。

戸田氏はこのため、松平の姓と葵（あおい）の紋を使うことを許された最初の大名であった。

水野氏の系図



水野氏系図

4、位置関係



岡崎（徳川氏）

刈谷（水野氏）

阿古居（あぐい）・阿久比（愛知県知多郡阿久比町）（久松氏）

家康は、於大の方が自分の生母であり、定勝とは異父同母弟であるため、定勝に松平姓と葵の紋の使用を許している。